

長期的ビジョンのもと 人材確保に注力

新日本ウエックス(株)(本社・名古屋)は、リネンサプライ、レンタルユニフォームの2本柱で、リーディングカンパニーの地歩を築いている。クリーニング、デリバリー、レンタルを一体化した「トータル・クリーン・マネジメント」を基軸にしており、ここでは、そのリネンサプライヤーとしての「顔」を見ることがしよう。

「品質」へのこだわり貫く

今春3月、日本テキスタイルサプライ協議会の設立総会が開催された。日本リネンサプライ協会、日本病院寝具協会、日本ダストコントロール協会、日本ダイアパー事業振興会の4団体(いずれも社団法人)が手を結んだ連合組織の誕生だった。総会員社数3400社、総従業員数18万人、総売上高は7400億円というビッグな組織がスタートした。

瀬武氏だった。

「4団体が協力し合うことで、お互いの業界が発展していこうと、昨年発足し、今春、正式に創立したわけです。活動の第1弾として、新協議会(4団体)が主催、日本リネンサプライ協会が主幹という形で、リネンサプライ業技能実習講習会を開くなど、連合の成果は徐々に挙がっています」と廣瀬氏。この講習会は、リネン

サプライ業界では初めてのもので、9月に初級講座を実施、来年2月に中級講座、さらに来年6月には上級講座を開くという。初級講座は、東京、大阪の2会場で行ない、約1000人が受講した。「私としては、まずは一歩前進したと思っています。ほかの3団体とも積極的に情報交換や技術の交流を図っているの、今後、より強い絆が結ばれ、相互にメリットを得る機会が増えるでしょう」初代の同協議会会長を務める廣瀬氏は、こう語っている。新たな挑戦が試みられているものの、リネンサプライ業界の市場動向は、依然として厳しいものがある。主力ユーザであるホテル業界の低迷が、リネン商品の安売り、価格競争に拍車をかけているという面があり、ネットオークションなど、

新日本ウエックス(株)社長で、(社)日本リネンサプライ協会の会長でもある廣



新日本ウエックス代表取締役社長(社)日本リネンサプライ協会 廣瀬 武

悪商品・サービスの安売りなどが市場を混乱させ、健全なリネンサプライ・ビジネスを貫いている企業にまでイメージダウンを波及させている。こうした現状に、廣瀬氏は、「品質」がどこかへ置き去りにされているのは残念です。中国からの輸入が主体となっている綿製品の価格が1.5〜2倍にはね上がっており、円高差益を勘案しても、3割程度の値上がりです。そうした厳しい条件下で、リネン品の品質を維持し、かつクリーニング効果による美しく、衛生管理の行き届いたサービスを提供していくことが、ホテルにとっても、ホテル利用のお客さまにとっても大切なことだと思います。当社は企業努力により、安心・安全なリネン品をリーズナブルな価格で安定的に提供しています。素材・製品・クリーニングを含めて、「品質」に関心をより強く持つていただくことを、ホテルの担当者の方々に望みたいと思います」(廣瀬氏)。

新日本ウエックスでは、自社および子会社の工場は12工場となり、ほとんどのリネン商品を自社工場でクリーニングしており、特に衛生面には細心の注意を払った仕上がりまでのシステムを構築している。集配ルートも自社で直接

集配作業ともに「自身体制」を、ほぼ確立している。さる2005年に、業界で初めての、ドイツ品質保障制度の「RAL」の認証を取得していることから、同社の「品質」へのこだわりがうかがえる。RALは、高品質を保証するための審査項目と、衛生品質を保証するための審査項目とで、具体的な達成数値を設定、数値基準クリアのための技術とルールの順守を求めているもの。RALの基準をクリアすることにより、清潔で美しく、ニオイのない、肌ざわりのよいリネン品が提供される。衛生面での安心・安全も保証される。ISO9001、14001も取得しており、全工場で工程表示、作業要領書、洗剤の処方など、各ラインごとに的確に管理している。「ホテル業界だけでなく、ブライダル業界、食品加工業界へも徐々に進出しており、目の前の利害に固執せず、長期的な視野からリネンサプライヤーの在り方を考えて行動に移しています」こう語る廣瀬氏だが、新卒採用を控える企業が多い中で、今春は大卒6人、高卒11人を採用、来春の内定者は、大卒12人、高卒5人と積極的な人材確保・育成を図っている。この辺にも、同社の長期ビジョンが具体的に示されていると言える。